

平成 28 年度 総合教育会議 議事録

日 時：平成 29 年 1 月 25 日（水）15：00～16：20

会 場：役場 3 階 304 会議室

出席者：町長、副町長、梶原正孝教育長、流石静雄委員、北澤良男委員、白鳥正彦委員、
渡辺裕子委員

（教育委員会）

学校教育課 — 小林課長、清水係長

生涯学習課 — 中村課長

文化振興局 — 小林局長

教育センター — 古屋センター長

（事務局）

赤池政策財政課長、渡辺主事

1. 開会

2. 出席者自己紹介

3. 町長あいさつ

4. 協議

●教育委員会の施策について

【町長】

それでは早速協議に入りたいと思う。まず、教育委員会の施策について教育長から説明をお願いする。

【教育長】

配布した「平成 29 年度富士河口湖町学校教育関連施策」をご覧いただきたい。たたき台ではあるが、平成 29 年度はこのように取り組んでいきたい。この中では子どもたちの学力をどう向上させるかに絞って提案する。教育大綱にもあるように、一人ひとりのニーズに合わせた教育を保証していく、という基本方針がある。しかし、子どもたちの学習環境が整っていない状況が正直あり、県でも施策を行っている。私どもも身近なところで放課後や長期休業中の補充・発展学習の機会を設けることを本年度から取り組んでおり、これについて引き続き来年度も取り組んでいく。教員 OB にも手伝ってもらうなど地域の財産をフル活用している。これについても今年も進めていきたいと思っている。

また、今一番大きな課題となっている小規模校のウィークポイントを克服するような手立てを講じていかなければならないということで、学校合同の学習会やネットを通じた授業などできるだけ大きな集団での学習の機会を設けるように進めている。そして、教育基金が充実してきた。それを活用していくために目標をつくっている。そのためには基金をきちんと使える人を配置しなければならないのでそれは教育センターでやってもらう。

学習を充実させるために心が育っていなければならないということで、子どもたちに善悪を教えなければならない。行動規範をしっかりとという指導するように学校の先生には伝

えている。卒業したら地元を出てしまうという関係を作りたくない。卒業してからも富士河口湖町に関わりながら、支えることのできる郷土愛のある子どもたちになってもらいたいと思っている。

それから、今学校では安全性について言われている。学校事故が一度起こってしまうと大変言われてしまうので、できる限りの点検や対策をしていきたい。学校事故だけでなく子どもたちを取り巻く環境の中、警察との連携でパートナーシップ協定を締結して情報交換をしていく中で見守っていく体制を構築した。それらを図式化したものが3枚目。これらは子どもたちに関わる部分だけかもしれないが、こういった土壌が最終的に生涯学習や文化振興につながっていく。この町の教育部分を形成していくことになるのでどうにか実現していきたい。私からは以上。

●教育委員会 各セクションの現状について

【町長】

続いて、教育委員会各セクションの現状について、まず学校教育課より説明をお願いします。

【小林学校教育課長】

現在、児童・生徒数が課題となっている。法律で通学区域を定めている。2つある場合は行くべき学校を教育委員会で別途指定している状況。特に小学校については、基本的に居住している大字の学校へ行くようになっている。ここ2年で就学の変更申請が多くなっており、29件あった。通っている保育所と同じ地区から進学したいから、兄弟が前から通っている学校に通いたいから、などの理由により申請がある。昨年までの申請件数の内訳としては船津から小立へ3人、西浜から小立へ3人。小立から船津に15人。勝山は小立から3人、大嵐から3人、西浜から2人。希望があれば、定例の教育委員会で図りながら申請を認めている状況。県の規定では小学校が1年生では35人学級としている。12人に満たない場合は複式になる可能性がある。来年度の1年生のクラスには複式学級になる学校がある。西浜で1つ、大嵐で1つ、豊茂で2つ。複式解消のための教諭を来年度当初予算で要望している状況。また、多様化ということで私立中学への流出がある。学校の選択肢が増える中でいかに児童・生徒を確保していくかの課題がある。

また、船津小の建て替えについて、校庭が狭いため北側の土地の買収し、その後造成、建て替えを行う。順序としては南側に仮設の校舎を建て、北館・東館の取り壊し、3階建ての1つの建物に建て替える。その後南館を取り壊し、仮設校舎を撤去する予定。平成29年度の計画としては主に仮設校舎の建設となる。平成31年度に校舎本体工事を着工する工程になっている。説明は以上。

【町長】

続いて、生涯学習課よりお願いします。

【中村生涯学習課長】

社会教育では勝山公民館の建設をし、4月から供用開始。今まで公民館がない地区は勝山地区だった。地域との結びつきが薄れているので、公民館を地域づくりの拠点として活

用していきたい。その中で子育て、高齢者、生活弱者の支援に結び付け、地域活性化を図っていく。地域の防災活動も公民館活動の中でできればと思っている。

社会体育については、大きな事業として体育館の耐震と中規模改修工事を今年の秋から来年の春くらいまで行う。また、ラグビーW杯やオリパラの誘致の関連でくぬぎ平サッカー場を改修する。地域の体育をする環境が減少していることが課題として挙げられる。

こどもら・図書館は他市町村からも評価をいただき、全体的に充実している。子育て支援課が新設となるので連携できればと思う。

文化財については専門職を配置し、世界遺産対応をしている。また、講師派遣など行い、文化財については非常に進んでいるという評価をいただいている。一方、文化財を多く有するが保存して継承するハコ物がない。勝山には歴史民俗資料館があるが老朽化しており、それ以外にはないのが現状。説明は以上。

【町長】

続いて、文化振興局をお願いします。

【小林文化振興局長】

ステラシアターと円形ホールにて音楽を中心とした文化振興と観光の活性化を踏まえた事業の展開をしている。ステラシアターは春～10月下旬までが利用の期間。昨年15年目を迎えた富士山河口湖音楽祭は世界を舞台に活躍している指揮者の佐渡裕さんを中心に地元の中高生、住民ボランティアを巻き込んで地域に根差しつつある。円形ホールでは年間を通じてピアノ教室等の発表会やクラシックコンサートとして活用している。

いずれも建設から22年が経過しており、計画的な修繕が必要となっている。また、事業が定着しつつもマンネリ化していることが課題なので、事業内容の見直しも必要と感じている。将来のあるべき姿を見据えて検討していきたい。説明は以上。

【町長】

続いて教育センターから説明をお願いします。

【古屋教育センター長】

教育センターの事業は4点ある。1つ目の教育相談は不登校児童・生徒の対応。2つ目は代替職員の派遣。3つ目は教職員の研修。4つ目は学習開発。この中の相談業務について、相談件数は593件。センターに来所した小中学生は11名、高校生は6名。学校に行ける子もいるが、全く行けない子もいる状況。学校と連携してできるだけ学校に行けるようにしている。子どもたちにもそれぞれ人格や状況が異なるので対応が難しいところがある。また、卒業してからセンターに顔を見せてくれるなど、卒業後の子どもたちの居場所にもなっている。子どもたちの学習の基礎や社会性を身につけさせていくのが基本だが、色々と模索しながら対応している。人数が多くなると子どもたちには仲間ができて社会性を身に付けられるのでいいが、二人の相談員では厳しい。派遣業務については依頼が94件、派遣が68件。先生の出張や休みの時に対応している。経験の浅い先生に対しての派遣も今年1件あった。説明は以上。

●懇談、意見交換

【町長】

各課より説明をしてもらった。これからは教育委員との自由討議ということで意見交換をしていきたい。なかなか意見が出づらいと思うので、学校教育課の内容について意見をいただければと思う。

【流石静雄委員】

昨年豊茂小の学校訪問をしたとき、卒業前に勝山中との交流を1日やっていた。大嵐小や西浜小などの小規模校も中学校との交流を年に1回や2回した方がいいのでは。

【小林学校教育課長】

年に数回の交流会をして進学後の環境づくりが必要だと思う。今年の2月には豊茂小、西浜小、勝山小で交流会を考えている。内容としては3校合同で授業を行うもの。地域が遠いこともあるのでネットを活用した勉強なども進めている。なるべく普段の授業に支障がない程度に交流を進めていきたいと思う。

【北澤良男委員】

豊茂小のお便りで見たが、大石への田植えや音楽の交流などとてもいい交流をしていると思う。逆に富士ヶ嶺にある牧場を見に来てもらうなどの交流もいいのでは。

【渡辺裕子委員】

町にも少子高齢化の波がきている。地域、小規模校のメリットをつくる必要があると思う。子育て世代の若者を増やす、地域をPRして町に戻ってきてもらうなどの施策や教育が必要だと感じる。外へ出てスポーツや学習塾などの交流があり、小規模校から規模の大きい学校に行っても問題のないように思う。

【町長】

自治体は赤ちゃんが生まれる前から高校卒業する18歳くらいまで、教育という投資をしている。その投資が戻ってこないのが一番困る。働く場所を確保するなど受け皿が必要。それが行政の役割。企業誘致から言うと、当町は工業団地がない。関東や東北では小さな町でも工業団地を持っているところがある。東京から地方へ企業進出をしたいのであればすぐにでも建築ができるようにしたいが、この地域は傾斜地が多く、国立公園なので規制が高い。富士山効果によりなかなか受け入れ態勢がとれない状況。他にご意見があればお願いします。

【白鳥正彦委員】

子どもを守る地域の安全について、雪に慣れているこの町の道路がまだ凍っている状況。町から委託をされている業者は優先順位があって除雪をしていると思うが、通学路についてその優先順位を上げてもらいたい。また、委託業者には除雪をした後にきちんと除雪ができているかの確認をさせるよう徹底した方がいいと思う。

【町長】

まず、除雪については生活道路を優先しているので大きな道路から雪を掻く。遠路からの通学が多くなってきており、そこまで対応できていない。寒波が来るということで業者には塩カルを撒くように段取りをしている。またそのような場面があれば順次対応してい

きたい。続いて生涯学習課について何かあるか。なければ文化振興局についてご意見はあるか。

【北澤良男委員】

ステラシアターの年間の稼働率はどのくらいか。

【小林文化振興局長】

夏場が中心となるが年間で5、6万人動員している状況。駐車場の問題があり、現状は町民体育館のグラウンドを借りてやっているが、悪天候の場合が使えないので課題。日赤の職員駐車場を借りることもある。最近は富士急と提携し、河口湖駅からシャトルバスを片道200円で出すなど対応をしている。

【流石静雄委員】

寒さ対策は何かやっているのか。

【小林文化振興局長】

屋外音楽堂なので特にやっていない。

【渡辺裕子委員】

小ホールは使っているのか。

【小林文化振興局長】

富士学園のジャズで使っている。町内の団体も使える。地下で除湿機を置いているが湿気がひどい。利用するとしてはあまり状態がよくない。

【渡辺裕子委員】

ぜひ音楽環境を地域に広げていただきたい。

【町長】

先ほどの説明にあったとおり、いじめや不登校問題など現場の学校でカバーできない部分を教育センターで補っている。教育センター関連で何かご意見はあるか。

【梶原正孝教育長】

不登校生徒の受入れる県立のコスモス教室という施設が都留にある。県の方針で平成31年に閉鎖となる。不登校や何らかの理由で学校に行けない生徒の受入れはすべて市町村に任されることになるので、教育センターの重要性がより高くなる。その中で気になっていることがあり、鳴沢から湖南中に来ている生徒は教育センターが町立なので行く場所がない。行政区を考えるとこのような事態になってしまう。鳴沢村の子どもたちも弾力的に受け入れをして、その中で人手が足りなくなったら負担の問題もあるが、教育センターを地域での教育相談や支援の場にしていかないといけないのではないかという思いはある。

【町長】

山梨県内の施設はどうなのか。

【梶原正孝教育長】

山梨県立の子どもを受け入れる施設は、都留だけではなくすべて閉鎖になる。各市町村の任されている状態だが、小さな自治体だと正直作れないので、地域で作っていかないとできない。

【町長】

この施設には通いになるのか。

【梶原正孝教育長】

通いになるが、都留の田野倉にあるので電車で行って帰ってくるということとはできないと思う。こちらから行っている子どもはいないと思われる。

【町長】

ちなみに町での不登校の生徒はどのくらいいるのか。

【小林学校教育課長】

不登校生は 5 人。

【町長】

長期間不登校の子は復帰が難しいと思うが教育センターの様子はどうか。

【古屋教育センター長】

学校に行けなくてもセンターに行ける子はいいが、センターにも来ない子は厳しい。家庭に籠ってしまう。

【町長】

東京都には不登校があっても区立や都立に一つの学級があり、そこで受け入れてくれるところがある。そこを卒業すると小学校や中学校を卒業した資格が得られるとのこと。しかし、むやみに不登校児を増やすということではなくなった。不登校生の内訳はどのようなになっているか。

【梶原正孝教育長】

小学生が 3 人、中学生が 2 人。この不登校の子どもがセンターに来られる子はいい。社会との繋がりがあったり、周りとの繋がりがあある。センターにも来られない子のフォローをどうするかはとても大きな問題で、簡単にはいかない。引き籠もる前にセンターでもいいからとにかく人と接するところ、センターに来れば学力を含めて保証する仕組みを作っていないといけないと思う。

【藤巻副町長】

この受け入れは民間ではやらないのか。

【渡辺裕子委員】

民間ではフリースクールがある。

【流石静雄委員】

半分ボランティアでないとできない。

【町長】

教育側に行政分野の情報があまりいかないと思う。逆に我々もこのような機会がないとなかなか具体的な数字が挙がってこない。先ほども申したとおり大きな事業が船津小学校の建て替え。今年は北側の傾斜地を買収した。その造成工事が入って、仮説校舎の建設を平成 29 年度までにやっていきたいという思い。来年の 4 月からは生徒を仮説校舎に引越しをして、北館を取り壊す予定。なぜ力を入れるのかというと、船津小を町のシンボルタワーにしたいと思っている。莫大な費用で大まかな数字だが約 30 億。3 年半できれいな

校舎にしていきたい。子どもの数が減少傾向だが、町全体では社会増。転入してくれる方には住居を作ってお住まいになってもらっている。富士吉田の方からも移って来られる方が多い。そういう面からも、若い夫婦や子どもへの支援策をとっていきたい。積極的に子どもたちへの投資をしていくのが、まちづくりの基本だと思っている。

【流石静雄委員】

富士川町では移住者に補助金や中学校までの学費を無料にするなどしているらしい。そうでもしないと都会から移り住まない。

【町長】

高校生3年生までの医療費は無料化をし、若い夫婦の支援策として保育料。県は第2子から無料としているが、その中で給食費が一人当たり月に4,000円掛かっている。そのうち去年は2,000円を公費負担にした。今年は残りの2,000円を公費負担にして給食費はすべて無料ということで施策を進めてきた。

5. 本日の懇談のまとめ

【藤巻副町長】

子どもは家庭と地域と学校で育っている。教育委員会の資料を見てもまさにそのとおりだと思う。家庭や地域や学校でどうやって学力を上げるのか、自分自身も何のために勉強するのか、興味を持たないとできるようにならないと私は思う。

雪掻きの話が出ていたが、私の出身の北杜市は雪が降ると除雪車が来ないので、自分の家の前の雪は掻かないとなってしまう。ついこの間までは地域みんなで一生懸命雪を掻いていた。学校までは一番に地域の人が雪を掻いていた。その心を地域の人が忘れてはいけないと思う。地域の子は自分の子だと思って、将来私たちの老後を託すには子どもたちに頑張ってもらわないといけない。そのような思いをもってやっていくことが大事だと思う。そういう意味では学校も教育委員も地域もお互いに協力をして、いい方向性を見出すことが大事だと思う。

6. 閉会

以上